

## 第4章 確率解析とBrown運動

### 4.1 Brown運動の強マルコフ性

話は1次元で行うが多次元でも同様にできる。以下、確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, P)$  とフィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)$  が与えられているものとする。また、フィルトレーション  $(\mathcal{F}_t)$  は右連続とする。つまり、

$$\mathcal{F}_t = \mathcal{F}_{t+} = \bigcap_{s>0} \mathcal{F}_{t+s}$$

が成り立つものとする。まず、Brown運動の強マルコフ性を述べるために  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻を定義する。

**定義 4.1**  $\tau: \Omega \rightarrow [0, \infty]$  が  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻であるとは、任意の  $t \geq 0$  に対して

$$\{\tau \leq t\} \in \mathcal{F}_t$$

が成り立つときに言う。

$\mathcal{F}_t$ -停止時刻に対して、時刻  $\tau$  までの情報の全体  $\mathcal{F}_\tau$  を

$$\mathcal{F}_\tau = \{A \in \mathcal{F}; \text{任意の } t \geq 0 \text{ に対して } A \cap \{\tau \leq t\} \in \mathcal{F}_t\}$$

で定める。

**注意 4.1**  $\mathcal{F}_\tau$  は  $\sigma$ -加法族である。実際、 $\Omega \cap \{\tau \leq t\} = \{\tau \leq t\} \in \mathcal{F}_t$  は明らかだから  $\Omega \in \mathcal{F}_\tau$  はすぐに分かる。いま、 $A \in \mathcal{F}_\tau$  とするとき、

$$A^c \cap \{\tau \leq t\} = \{\tau \leq t\} \cap (A \cap \{\tau \leq t\})^c$$

だから、右辺は  $\tau$  が停止時刻であることと  $\mathcal{F}_\tau$  の定義から  $\mathcal{F}_t$  の元であることが分かる。つまり、 $A^c \in \mathcal{F}_\tau$  である。最後に  $A_1, A_2, \dots \in \mathcal{F}_\tau$  とする。このとき、

$$(\bigcup_{n \geq 1} A_n) \cap \{\tau \leq t\} = \bigcup_{n \geq 1} (A_n \cap \{\tau \leq t\}) \in \mathcal{F}_t$$

となり、 $\bigcup_{n \geq 1} A_n \in \mathcal{F}_\tau$  も分かる。以上より  $\mathcal{F}_\tau$  は確かに  $\sigma$ -加法族になっている。

**命題 4.2**  $\tau, T$  を二つの  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻とし、 $\tau \leq T$ , *a.s.* とする。このとき

$$\mathcal{F}_T \supset \mathcal{F}_\tau$$

である。

**証明**  $A \in \mathcal{F}_\tau$  のとき、任意の  $t \geq 0$  に対し、

$$A \cap \{T \leq t\} = A \cap \{\tau \leq t\} \cap \{T \leq t\} \in \mathcal{F}_t$$

となるので  $A \in \mathcal{F}_T$ 。

**例 4.1**  $X(t)$  を右連続な確率過程で、 $(\mathcal{F}_t)$ -適合、つまり任意の  $t \geq 0$  に対して  $X(t)$  は  $\mathcal{F}_t$ -可測とする。このとき、 $A \in \mathcal{B}(\mathbf{R})$  が開集合ならば

$$\tau_A = \inf\{t \geq 0; X(t) \in A\}$$

は  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻になる。実際、 $A$  が開集合ならば右連続性から

$$\{\tau_A < t\} = \bigcup_{s < t, s: \text{有理数}} \{X(s) \in A\} \in \mathcal{F}_t$$

で、これから  $\mathcal{F}_t$  の右連続性により

$$\{\tau_A \leq t\} = \bigcap_{n \geq 1} \{\tau_A < t + \frac{1}{n}\} \in \mathcal{F}_{t+} = \mathcal{F}_t$$

となり、確かに  $\tau_A$  は  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻。少し面倒だが同様に  $A$  が閉集合のときも  $\tau_A$  は  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻になる。

**定理 4.3** (Doobの任意抽出定理)  $X(t)$  を  $\mathcal{F}_t$ -劣マルチンゲールとすると、 $\tau_1, \tau_2$  がともに有界な  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻で  $\tau_1 \leq \tau_2$  *a.s.* であるならば、

$$E[X(\tau_2) | \mathcal{F}_{\tau_1}] \geq X(\tau_1) \quad \textit{a.s.}$$

が成り立つ。

マルチンゲールのときは上の不等式は等式になる。

**定理 4.4** (Brown 運動の強マルコフ性)  $B(t)$  を  $\mathcal{F}_t$ -Brown 運動,  $\tau$  を  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻とすると, 任意の  $\xi \in \mathbf{R}$  と  $t > 0$  に対して

(i)  $\{\tau < \infty\}$  上 *a.s.* で

$$E \left[ e^{i\xi(B(\tau+t)-B(\tau))} \middle| \mathcal{F}_\tau \right] = e^{-\frac{1}{2}\xi^2 t} \quad (4.1)$$

(ii)  $B(\tau+t)-B(\tau)$  は  $t \geq 0$  について Brown 運動, *i.e.*, 任意の  $0 = t_0 < t_1 < t_2 < \dots < t_n$  と  $A_1, A_2, \dots, A_n \in \mathcal{B}(\mathbf{R})$  に対して

$$\begin{aligned} & P \left( \bigcap_{j=1}^n \{B(\tau+t_j) - B(\tau) \in A_j\} \right) \\ &= \int_{A_1} dx_1 \cdots \int_{A_n} dx_n \prod_{j=1}^n g(t_j - t_{j-1}, x_j - x_{j-1}) \end{aligned}$$

ただし,  $x_0 = 0$  とし,  $g(t, x)$  は ガウス核で

$$g(t, x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi t}} e^{-\frac{x^2}{2t}}$$

で与えられる。

**補題 4.5**  $\xi \in \mathbf{R}$  に対して  $M_t(\xi) = e^{i\xi B(t) + \frac{1}{2}\xi^2 t}$  とおくと  $M_t(\xi)$  は  $\mathcal{F}_t$ -マルチンゲール。

**証明**  $|M_t(\xi)| \leq e^{\frac{1}{2}\xi^2 t}$  なので  $M_t(\xi)$  は有界で可積分.  $\mathcal{F}_t$ -適合性も形から明らか.  $t > s$  として,

$$\begin{aligned} E[M_t(\xi) | \mathcal{F}_s] &= e^{i\xi B(s)} E[e^{i\xi(B(t)-B(s))} | \mathcal{F}_s] e^{\frac{1}{2}\xi^2 s} \\ &= e^{i\xi B(s) + \frac{1}{2}\xi^2 s} E[e^{i\xi(B(t)-B(s))}] \\ &= e^{i\xi B(s) + (\frac{1}{2} - \frac{1}{2})\xi^2 t} \\ &= M_s(\xi). \end{aligned}$$

**補題 4.6**  $\tau$  を  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻とすると, 任意の  $t > 0, \xi \in \mathbf{R}$  に対して  $\{\tau < \infty\}$  上 *a.s.* で

$$E \left[ e^{i\xi(B_{\tau+t}-B_\tau)} \middle| \mathcal{F}_\tau \right] = e^{-\frac{1}{2}\xi^2 t}$$

つまり定理 4.4 の (i) が成立する。

**証明** 自然数  $n \geq 1$  に対して  $\tau_n = \tau \wedge n$  とおくと, これは有界な  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻なので, 補題 4.5 の  $M_t(\xi)$  に対して任意抽出定理が使えて

$$E \left[ M_{\tau_n+t}(\xi) \middle| \mathcal{F}_{\tau_n} \right] = M_{\tau_n}(\xi) \quad \textit{a.s.}$$

という式が成り立つ. いま, 任意の  $A \in \mathcal{F}_\tau$  に対して  $A \cap \{\tau \leq n\} \in \mathcal{F}_{\tau_n}$  であるので,

$$E[M_{\tau_n+t}(\xi); A \cap \{\tau \leq n\}] = E[M_{\tau_n}(\xi); A \cap \{\tau \leq n\}]$$

となるが,  $\{\tau \leq n\}$  上では  $\tau_n = \tau$  なので,

$$E[M_{\tau_n+t}(\xi); A \cap \{\tau \leq n\}] = E[M_\tau(\xi); A \cap \{\tau \leq n\}]$$

が任意の  $A \in \mathcal{F}_\tau$  に対して成り立つ事になる. したがって任意の  $n \geq 1$  に対して

$$E \left[ e^{i\xi B_{\tau+t} + \frac{1}{2}\xi^2 t} \middle| \mathcal{F}_\tau \right] = e^{i\xi B_\tau} \quad \textit{a.s. on } \{\tau \leq n\}$$

これは補題の主張を示している。

定理 4.4 の (ii) の証明は帰納法による.  $\tau+t$  も  $\mathcal{F}_t$ -停止時刻である事に注意。